KINGCA WEEK 2022　に参加して

神戸大学医学部大学院食道胃腸外科
山田康太

この度 2022 年韓国胃癌学会である KINGCA WEEK 2022 年に現地参加させていただきました。当科の掛地教授よりこのような有難いお話をいただき参加させて頂く運びとなったのですが、当初は日本での COVID-19 感染症の感染状況から現地参加は難しいのではと考えていました。また 7 月末頃より韓国においても COVID-19 感染が再燃している状況でありました。KINGCA WEEK 事務局のご厚意もあり現地参加ができそうとのことでありましたが、次なるハードルは日本での VISA 取得でした。当時はまだ韓国渡航に関して VISA 取得が必須であり、韓国渡航が解禁されてまもない時期であったため熱い日本の韓国ファンから申し込みが殺到している状況でありました。VISA 取得のための大使館の予約がすぐに埋まる状況であり予約すら取れない状況で韓国渡航を諦め web 参加に切り替えていました。その中、日本から韓国への渡航に関する VISA が急遽免除になり再度現地参加ができるとのことで急いで航空券・宿泊予約を行いました。

こうしてバタバタしながらもなんとか現地参加し、発表を行うことが叶いました。現地発表を行ってまず思ったことは、韓国の医師の英語力の高さでした。自身としてはこれまで論文などで英語の読み書きをする程度で、また海外学会での発表機会がなく、日本の英語セッションで発表を行う程度の経験しかありませんでした。現地では自分と同じくらいの卒後１０年程の年代の医師がまるで自国語を扱うかのように英語を話し議論を交わしていました。私の発表自体は予定していた内容を話すのみでしたが、質疑応答では質問してくださる先生や座長の先生の意図がわからない部分、またわかっても上手く言葉として表現することが難しく、自分の英語力のなさを痛感する形となりました。

また 2 日目のセッションでは The University of Texas MD Anderson Cancer Center の生駒成彦先生の発表を聴講することができました。発表の後に少しばかり時間をいただき貴重なお話をさせていただきました。生駒先生は初期研修を終えられた後慶應大学に入局され、周りの優秀な医師となんとか違いを見せていくには同じことをしてはいけないと感じ、2 年ほどですぐに渡米しアメリカで医師として修行を開始されました。アメリカではレジデントからやり直してフェローになるまで大変苦労されたそうです。アメリカでは現在、胃癌と膵臓癌のロボット手術をメインに行なっており、当病院でのロボット手術の第一人者として活躍されております。当初は開腹手術からダイレクトにロボット手術に移行されたそうで、これからの若い先生もラパロの手術を経ずにロボットの技術を磨いていく時代になるのではとおっしゃっていました。先生は思ったことはすぐに行動に移すことが重要とおっしゃっており、先生の行動力とその言葉が非常に印象に残っています。

空いた時間で韓国観光をしましたが、学会会場の方も含め韓国人はみんな親切であり、日本語に長けている方もたくさんおられました。数年前は日韓関係の悪化など取り沙汰さ

れておりましたが、そのようなことは今回の渡韓では全く感じることがなく、非常に有意義な学会発表を行うことができました。今後もこのように他国での学会発表に関して日本の消化器外科医も活発に参加し、国際交流や他国の胃癌を含めた癌診療について学ぶことが引き続き重要になると感じました。

最後になりますが、今回このような有難いお話をいただきました、日本胃癌学会理事長掛地先生、日本胃癌学会事務局の方々、KINGCA WEEK 2022 関係者・事務局の方々に深く感謝申し上げます。

以下写真データ

写真 1：oral presentation の様子

写真 2：UT MT Anderson Cancer Center の生駒成彦先生（中央）と私（左)、同僚の向山先生（右）

写真 3：掛地教授とも